

【主な意見】

◎基本施策について

(委員)

- ・する・みる・ささえるという3つの柱でいくのはとてもいいことだと思います。キャッチコピーがしっかりあることで、何か佐賀市がやることに対してこれは「する」に当たって、どういう貢献ができるのだろうか、「ささえる」はどのような貢献ができるのだろうかと考える1つのちゃんとした視点を常に置くということですごくいいことかなと思います。

(委員)

- ・する・みる・ささえるはとても大事だと思います。調べるとか、つまり自分が直接は関わらないでも調べて楽しむとか見て興味を持つとかありますので、「調べる」はどこに位置するのかなとか思いました。

(事務局)

- ・調べるそのものをどう動機づけてやるかですが、そこは今後の課題整理の中で整理していくべきかと思います。

◎課題整理について

(委員)

- ・地域のスポーツ活動の推進というところで、地域の指導者の育成というのもあると思うのですが、今現在、部活動と社会体育との関連性がどうなっているのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・学校部活動が地域移行しようということで、地域によって取組は様々というのが現状です。社会体育のクラブに出ていきましようということもあれば、学校側に指導者を派遣してしばらく続けましようという自治体もあります。

(委員)

- ・指導者育成というところで、具体的な取組、課題とかありますか。

(事務局)

- ・指導者の不足というところは部活動が移行するに当たっての課題だろうと思います。そういったその担い手をどうするのかは考えなきゃいけない。「ささえる」になると思うのですがボランティアである有償ボランティアなのか、ビジネスとしての指導者という方もいらっしゃると思うので、そういったとこをどうするのかを議論する必要があると思います。

(委員)

- ・国が中学校から今地域移行しようという流れで、文部科学省もすごい勢いで始めましたけれどもやっぱり現場が追いついてないということで、今保留状態になっています。それで各都道府県の教育委員会に指令を出して、どうやるかっていうところでモデルをつくりなさいってということで佐賀県の教育委員会も11のパターンを整理しています。パターンを整理し、この中で市町村に合うものを選ぶ形になっている状況が佐賀県です。教育委員会が総合型と連携するなどいろいろな在り方を探ってらっしゃると思うので、その

方向性が決まっているのだったら、そこに合わせた計画というのはあると思います。

(委員)

- ・指導者もそうだけど、子どもたちにシンプルで分かりやすい、そういう組織にしていきたい。

(委員)

- ・中学校の現場としては、今まさに変わろうとしているが、今まだ学習指導要領の中に部活動の意義というのがうたわれていますので、少なくとも中学校の先生は部活動をしなればいけないという流れが保護者は思っています。

ただ、国が令和8年度から社会体育に移行というよりも、地域移行を目指す流れになっています。

(委員)

- ・健康ひろげ隊の指導者が高齢化しています。ですから「ささえる」という意味で、健康広げ隊員を増やすのも効果的です。

ボランティアに関して、企業の協力、企業の理解はすごく大事だと思います。

(委員)

- ・「国際交流や経済団体などとの連携」が具体的にどういうふうにされているのか、今まであんまり意識してなかったのではないかなあと思うのですが、「スポーツによる地方創生まちづくり」の捉え方があったら教えてください。

(事務局)

- ・する・みる・ささえる・稼ぐみたいなことという、企業の誘致や、産業分野においては、1企業を活用して稼ぐということはよくやる手法です。

それでいくと、スポーツ振興課でこのプロスポーツ支援みたいなことを扱うのかっていうのは議論すべきところなのかなと思います。よその自治体とかだと、観光文化スポーツ課みたいな、課の在り方自体が、いわゆる市民スポーツの分野とスポーツを使った観光とか産業みたいな分野を分けているところもあります。

(委員)

- ・この会議の中で、なかなか発言できないというのは、何を達成して何を達成できていないのかが数字として出てこないもので、どう言ってもいいかも分からない。

そのためにも、体育スポーツ施設の利用者数など、これから進める施策の参考数値になるようなものもあわせてお見せ頂きたい。

日常的にと言うなれば、体育施設以外の公園など実際に持っているデータ（情報）を参考に知りたい。

(事務局)

- ・佐賀市の現状やスポーツ振興課の事業でどこが足りないのか、施設の利用状況で問題になっていること、第2次計画の具体的取組の成果を分かりやすくお示しします。